

2014年4月

生活困窮者自立促進支援モデル事業

～新しい形のくらし・自立・就労支援～

いわて県南パーソナル・サポート・センター
くらし相談室
(☎ 080-2813-3099)

目次

1. いわて県南パーソナル・サポート・センターとは

2. 相談支援の内訳

3. 相談支援事例

1-1. いわて県南パーソナルサポートセンターとは？

当センターは「生活困窮者自立促進支援モデル事業」の実施における『**自立相談支援機関**』として、岩手県より委託を受け、事業推進を担う奥州商工会議所の下部組織。
当センターは、ハローワーク、県、社会福祉協議会、奥州市（緊急雇用創出事業）等と事務所フロアを隣接させ、既存の取組とモデル事業との連携による**包括的支援**を展開。

当センターの主な業務

1. 当該事業の下記の事業実施

(1) 自立相談支援モデル事業

(2) 就労促進のための支援事業

① 就労準備支援モデル事業 ② 「就労訓練事業(中間就労)の推進」モデル事業

(3) 家計相談支援モデル事業

2. 支援調整会議の開催運営

県南内陸・沿岸部を6圏域に分割し、各圏域毎の福祉事務所、社会福祉協議会を始めとする支援関係機関参加による定期会議を実施

① 事業推進の各機関間の定期会合による地域ネットワークづくりと共有化を図る

② ケース案件の審議・承認を得ることで、支援の質の向上を図る

1-2. いわて県南パーソナルサポートセンター

生活や就労に関する相談を
包括的にコーディネート

- ◆ 県とハローワークとの一体的実施の協定締結、奥州市の緊急雇用創出事業の活用など、既存の取組とモデル事業との連携を図っている。
- ◆ センター内には自立相談支援事業の相談支援員のほか、ハローワークや社会福祉協議会の職員も配置。

相談・就労支援員については、社会福祉士、社会福祉士主任任用資格、准看護師、介護福祉士、ファイナンシャルプランナー(AFP)、キャリアカウンセラーなどの有資格者を配置している。

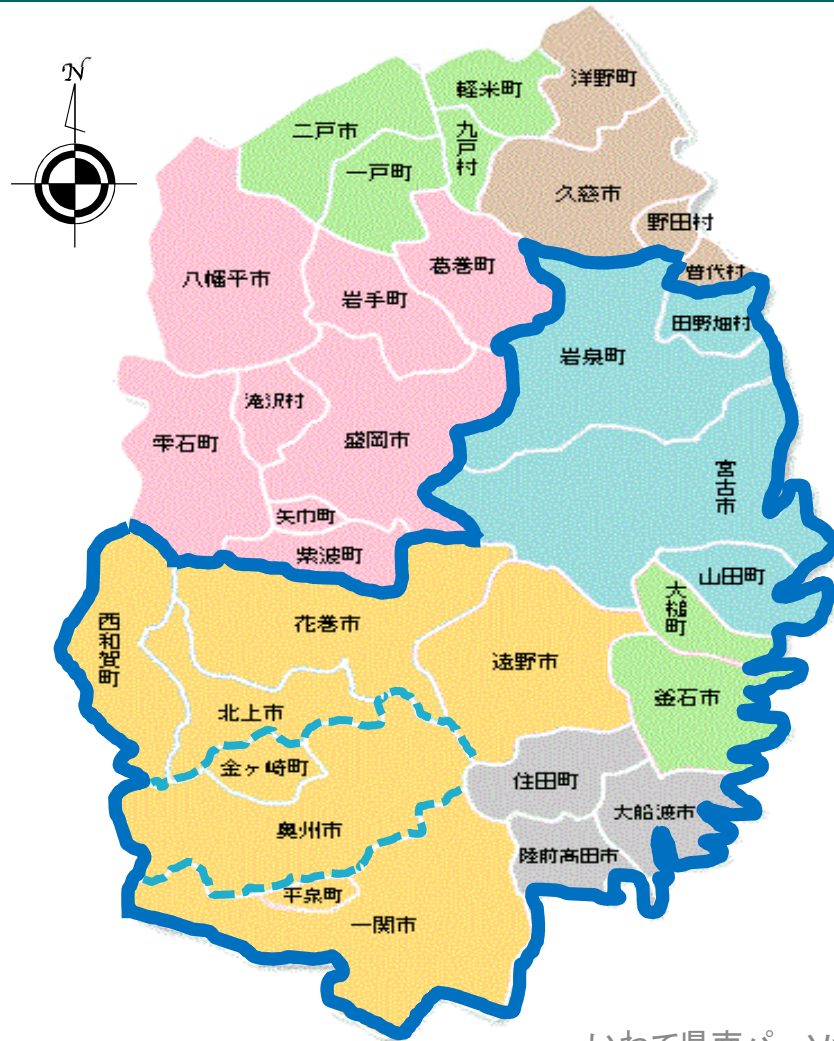
センター内レイアウト



しごと
相談

くらし
相談

1-3. いわて県南パーソナルサポートセンターの 事業展開領域



【内陸部】

- 遠野市
- 花巻市(※)
- 西和賀町
- 北上市
- 金ヶ崎町
- 奥州市
- 平泉町
- 一関市

【沿岸部】

- 宮古市
- 田野畑村
- 岩泉町
- 山田町
- 大槌町
- 釜石市
- 住田町
- 大船渡市
- 陸前高田市

※市が実施するモデル事業分を除く

9市7町1村

1-4. 様々な問題を複合的に抱える方

精神保健
をめぐる問題

**病気・障害
不安
健康上の悩み
など**

社会生活
をめぐる問題

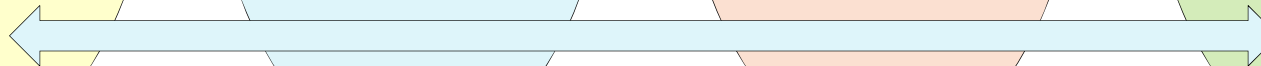
**長期失業
仕事上の悩み
ひきこもり
社会的孤立
など**

家族関係
をめぐる問題

**家庭崩壊
暴力
虐待
など**

経済関係
をめぐる問題

**住居問題
生活資金枯渇
消費者トラブル
多重債務
など**



1-5. 自立相談支援とは？

個別に寄り添い、相談者個人が持つ問題全体に対応する機関です

- ①こちらから出向き、問題を聴き整理し解決のための支援プログラムと一緒に作ります。
- ②個別に伴走する形で関係機関を回るなどして問題解決にあたります。
- ③自立就労できるまで継続的に支援を続けます。

1-6. 考え得る自立の各ステップ

経済的自立

就労等により生計維持が出来る

社会的自立

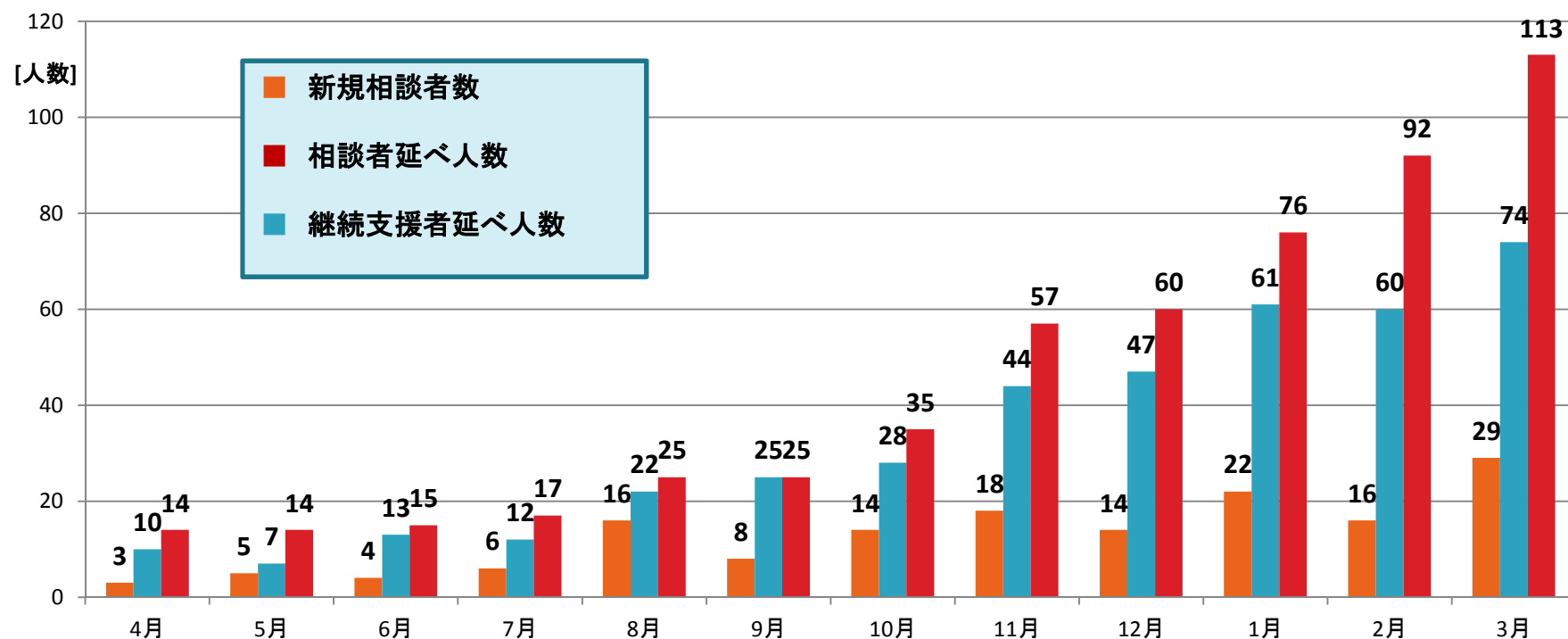
地域社会と
協調して暮らすことが出来る

日常生活上の自立

日々規則正しく生活出来る

相談者の状況に応じた自立の形態を
考え、達成に向け支援していく

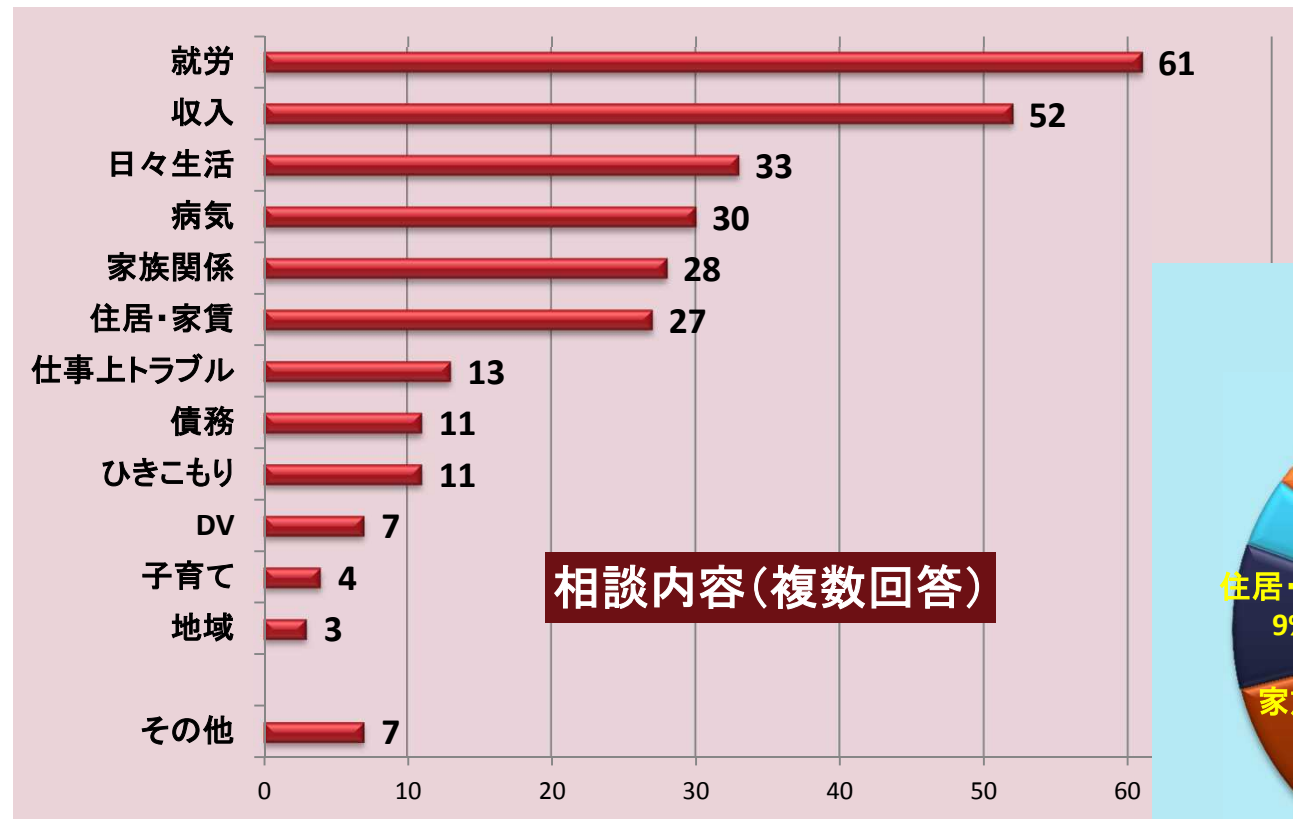
2-1. 相談者数(支援者数及び新規相談者)



平成25年度

- ・新規相談者数 155人
 - ・相談者延べ人数 543人
 - ・継続支援者延べ人数 403人
- (宮古圏域は8月分から計上)

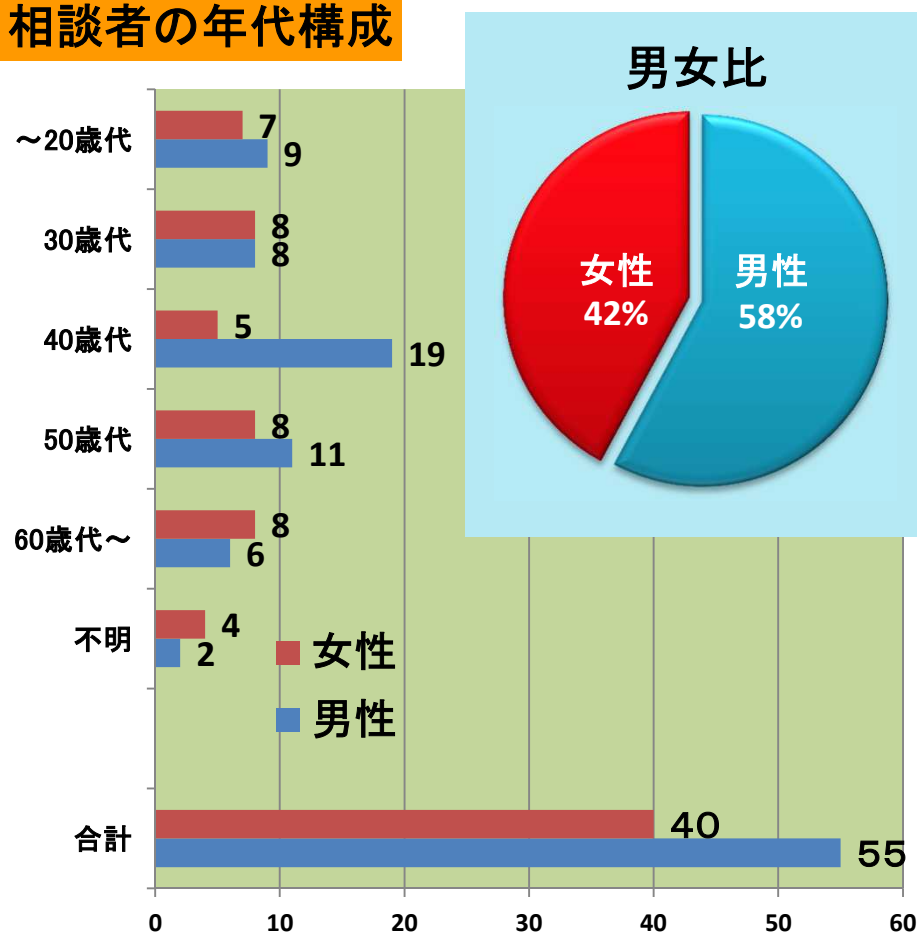
2-2. 相談内容内訳



複合的に問題を抱える相談者が多く、生活困窮として就労、収入などの問題が共通している。これらを背景に、病気や家族関係の課題などが傾向として多い。

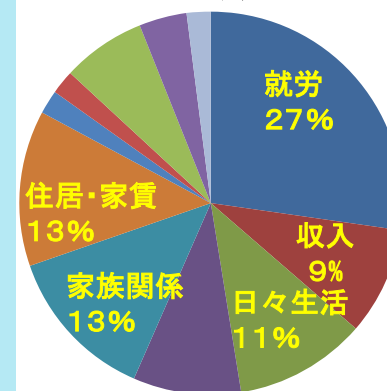
2-3. 相談者男女比 年代別相談内訳

相談者の年代構成

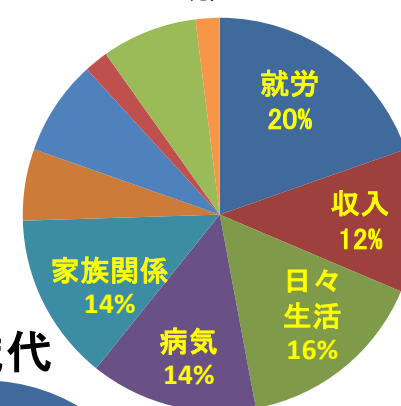


抱える相談内容は複数回答によるものであり、各年代とも平均3項目であった。

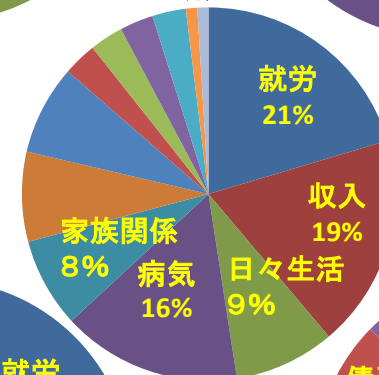
～20歳代



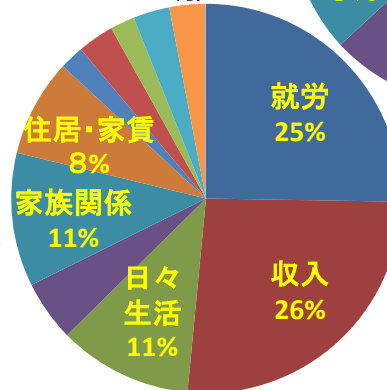
30歳代



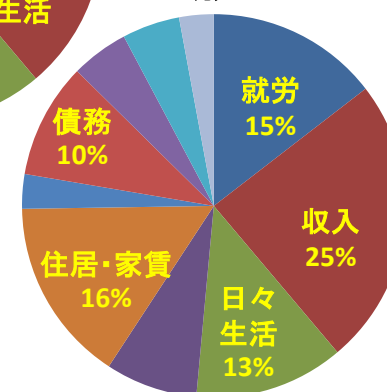
40歳代



50歳代

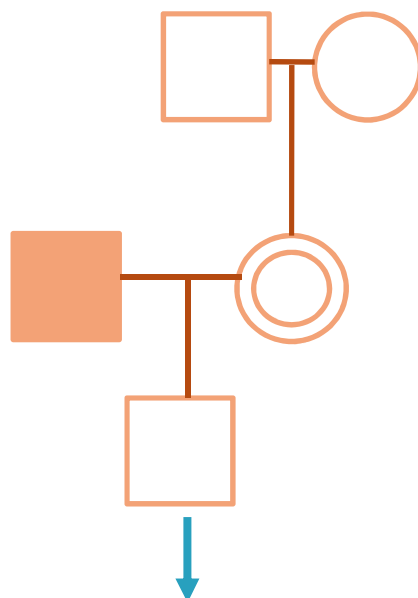


60歳代～



3-1. 相談支援の事例①

登録番号	年齢	性別	支援期間	現在の状況
	50代	女性	3ヶ月半	終結



結婚し、県外別世帯

《状況》

人間関係の悪化から職場を退職して2年半失業中。債務整理の過払返還金を取り崩して生計維持しているがお金が底を尽きてきており生活困窮（夫死亡しており独居）。近隣にいる両親、近所との付き合いはほとんどなし。就労意欲は低い。

《支援内容》

- 対人関係の再構築・・・ジョブカフェと連携しての面談
- 就労意欲の喚起・・・家計診断を実施し生活費を試算、最低必要生活費を提示。すぐにでも就労して収入を確保しなければならない状況を認識してもらうと共にジョブカフェとの連携、ハローワークへの同行で求人情報の収集をする。
- 生活費の確保・・・市社会福祉協議会の緊急小口資金の借入。未就労が長引けば生活保護申請も視野に入れる。

《連携機関》

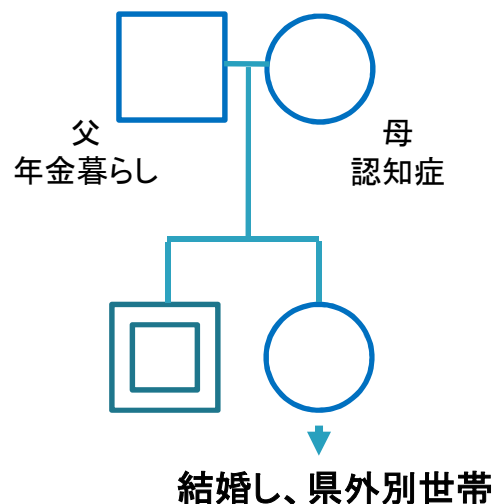
ジョブカフェ・市社会福祉協議会・ハローワーク・地区民生委員

《終結状況》

- ・市内食品関連企業の事務職に採用され就職。
- ・初回給料日までの生活資金として、市社会福祉協議会の緊急小口資金10万円を借入した。
- ・相談者へ定期的に電話し「最初から頑張りすぎないこと」「人間関係や仕事、日々の暮らしで困ったことがあったら遠慮しないでいつでもPSに電話するように」と孤立感を持たせないよう努めた。

3-2. 相談支援の事例②

登録番号	年齢	性別	支援期間	現在の状況
	30代	男性	4ヶ月	見守り



《見守り状況》

ハローワークでジョブ・カードを作成し、職業訓練協会の介護職員初任者研修に遅刻なく休まず通学中。

自己紹介で今までのひきこもりのこと、介護職への意気込みを受講生の前で快活に話したそうである。

《状況》

小・中・高といじめによる登校拒否、高校は2年で中退するも、高卒認定試験を受け通信制の大学と関西の専門学校を卒業。就活をせず卒業後も親の仕送りで4年間関西で、人との接触なくひきこもっていた。

その後実家へ戻り5年間、食事とトイレ以外は部屋にひきこもり家から外出していない。ただ、認知症の母親のトイレ介助はしている。

《支援内容》

- 対人関係の構築………若サポ・PSスタッフと面談の機会を通じてコミュニケーション力を養う(家族以外との会話は8年ぶり)
- 日常生活のリズムの改善…昼夜逆転の生活リズムのため面談時間、電話等を午後から午前に少しずつ移行していき遅くても午前10時までに起床するよう習慣づけた。
- 興味を示しそうな社会資源の提供…市立図書館での就労体験、高齢者介護施設・障害児ディケアの見学ができることを情報提供。
- 社会参加・就労意欲の喚起…上記の図書館での就労体験を経て、人の役に立ちたいとの意思を汲み、高齢者介護施設・障害児ディケアの見学をしてもらった。また職業訓練協会の「介護職員初任者研修」の案内もする。

《連携機関》

若者サポートステーション・ハローワーク 他
(市図書館・介護/ディケア施設)

いわて県南パーソナル・サポート・センター ご 案 内

当センターは、

岩手県から奥州商工会議所が受託し運営をしています。

○相談・支援ご利用は無料です

○個人情報保護を厳守します

お気軽にお声をかけてください

〒023-0801 岩手県奥州市水沢区横町2の1（水沢メイプル地階）

電話 080-2813-3099 FAX 0197-23-6371

開所 月～金曜日 午前8時30分～午後5時00分

（自立相談支援は、ご希望により、こちらからご自宅・最寄りの機関等へ出向きます）